

スポーツ分析論の授業評価・授業研究報告書

保健体育講座・福田 隆

1-1 授業の概観

本授業は、2年後期に開講する科目であり、スポーツ健康科学課程の必修科目である。受講学生数は、21名であった。

1-2 授業の目的：

さまざまなスポーツ活動の基本動作から競技場面において、指導上必要な情報や競技結果に影響を及ぼすさまざまな因子について、この分析・評価方法について学習する。指導者としての資質向上を目指す。

1-3 授業の到達目標：

①知識・思考

さまざまなスポーツのルール・競技特性を説明することができる。

②技能・表現

場面に適した分析方法を分類し、説明することができる。

③意欲・関心・態度等

競技成績を決定する要因を分析することができる。競技種目の特性を比較することができる。競技レベルの違いによる指導方法を分類することができる。

1-4 授業の概要：

スポーツ場面における、基本的な分析・評価方法について学習する。自分が行ってきたスポーツの競技特性を説明し、この指導法や競技成績を左右する要因についてディスカッションする。

2 授業評価法

授業の評価は、授業の單元ごとのレポート作成及びこの発表及び、フリーディスカッションにおけるコメントを参考にした。アンケートの形態は、自由記述型のものとして幅広く学生の評価を得ることを目的とした。

3 授業評価結果

(1)「スポーツや健康に関する課題に関心を持ち、主体的に課題解決に向かって、理論と指導を関連させた取り組みができる(DP4、関心・意

欲)」について高い評価が得られた。

学生の多くは、競技者として高いレベルで活動を続けてきたが、熱心な指導者の方法論をそのまま実践していた。また、優秀な競技者や指導者の理論を直接的に受け入れて現在に至っていた。

しかし、スポーツを分析することの意義・必要性を理解するとともに、分析観点の多様性を学習することによって、自らが意欲を持って問題を解決していくことが重要である事がほぼ全員から述べられていた。

(2)「充実した生涯学習社会を築くため、スポーツや健康に関する確かな専門的知識を習得している(DP1、知識・理解)」においても高い評価をえられた。

自分の行っている競技を分析し発表・ディスカッションを行うことによって、分析の観点における問題点、分析の方法論に関する知識を明確にできたと思える。さらに、異なる競技の発表に対しディスカッションを行うことによって、幅広い知識を得られたとともに、新たな方法論や考え方も確立したと思える。

(3) レポート

レポートの作成にあたって、各自の課題を設定し、これについて調査(文献等)及びデータを収集した。文献や専門の指導書を調べることによって、探求することの楽しさ・必要性が深められたと思う。しかし、測定(定量)するための機材を十分に提供できなかったため、データとしては、精度が低い状態で終わってしまった。この点については、次回の改善点としたい。

4 まとめ

この授業は、開講してから2年目の授業であるため、試行錯誤的な部分も多くあり、今後より充実した授業を展開していくためにも、さらなる準備を進めていきたい。また、学生からの意見も有効活用して行くつもりである。